



学校だより

# 「至誠」

防府市立松崎小学校

第20号

令和3年9月6日

## ＜字を書くことの大切さ～正しい鉛筆の持ち方を身に付けていますか？～＞

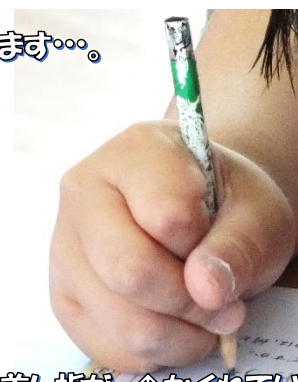
近年、子どもたちの書く文字が薄くなり、使用させる鉛筆を「B」から「2B」に変更する学校が増えていると聞きます。その原因を「手の力の不足」と捉える向きもありますが、長崎大学教育学部で書写指導を長年研究する鈴木慶子教授は、「本来は余分な力をかけずに書けるというのが正しい書き方です。手指の力というよりも、正しく鉛筆が持っていないというのが原因では、正しい鉛筆の持ち方を教えることで克服できる。」と述べています。

海外では、手書きを見直す動きも出ているようです。ノルウェーでは、ノルウェー科学技術大学の研究チームが「子どもたちが最低限の手書き学習を受けられるよう国がガイドラインを整備する必要がある」というコメントを発表しました。調査の結果、「手書きした時の方が脳の活動が活発化している」ことが分かったということです。このほか、ドイツでは、いまだに万年筆を使った指導をしています。万年筆を使うのは小学2年生からですが、手書きは自分の考えを頭の中で整理してから書くという訓練にもなると考えられているようです。日本の場合には、漢字を覚えるという意味でも手書きによる学習は必要だと思えます。

手書きによる学習を進めていく際に、忘れてはいけないのが、「鉛筆の正しい持ち方」です。文部科学省が行なった調査によれば、鉛筆を正しく持っている子どもの割合は、どの学年においても1割未満。年齢が上がってもその傾向にはさほど変わりがなく、大学生でもたったの7.6%しか、鉛筆を正しく持つことができていないことが分かったのです。



↑正しい美しい持ち方ができています！



人差し指が↑かかれています

正しい鉛筆の持ち方を身に付けると、①手や指が疲れにくくなります。②字を美しく書くことができますようになります。③手元がよく見え、字が正確に書けるため、計算等のミスが減ります。④学習に対する集中力が持続します。⑤字を横からのぞき込むことがないため、姿勢が良くなります…。と、こんな風に「いいことづくし」です。大人になって、鉛筆の持ち方に気恥ずかしさを感じることもなくなりますし、自分の字に自信も出てきます。小学生の今、本気で取り組みれば間違った鉛筆の持ち方をリセットすることは可能です。がんばってみませんか！！

新型コロナウイルス感染症は、感染力が強いとされる「変異株」の流行により、防府市でも新規感染者数が8月中旬から急増し、現在も高止まりの状態です。それに伴って、9月12日までは現在の「レベル3・ステージⅣ」の感染状況であれば運動会を無観客で実施するよう防府市教育委員会から指示がありました。また9月12日以降も「レベル3・ステージⅣ」の感染状況であれば、同様に無観客で実施する可能性が高いとのこと。

この現状を踏まえて学校として今後対応を考えていきます。

あわせて松崎小のホームページ上で、運動会の練習風景をツイッターで紹介しています。子どもたちが努力し、成長する姿をぜひご覧ください。



【松崎小ツイッター】